

川上から川下まで、山の将来を見据えた森林経営

1. 林業事業体等名 株式会社ウディーコイケ木材事業部 もくさいじぎょうぶ さんりんぶ 山林部(埼玉県秩父市)

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 8,000m³ (うち 間伐の占める割合 —%)
- ②生産する主な樹種 スギ、ヒノキ
- ③素材生産に関わる作業員数 5名 (1セット2~3名×2セット)

3. 取組みの特長

- 当事業体は素材生産から製材・加工に至るまでの一貫したプロセスを自社で行っている。そのため、自社のプレカット工場が必要となる寸法の材を伐採・搬出している。さらに、C材・D材も搬出してボイラーの燃料としており、森林資源を最大限に活用している。
- 作業班には架線系と車両系を専門とする班がそれぞれあり、現場の地形に合わせて配置し、効率的な生産を行っている。
- 林業機械を扱う際の工夫として、各作業員が使用する機械をあらかじめ決めている。これにより機械のメンテナンスが行き届くことで故障を防止している。
- 職場研修として、製材工場の従業員に対して搬出現場の見学会を行い、素材生産の苦労を共有することにより、職員全体の意識を高めている。

4. 具体的な内容

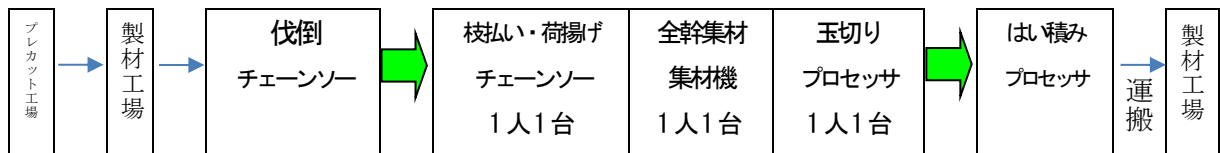
①施業方法: 架線系システム及び車両系システムによる皆伐

②使用機械

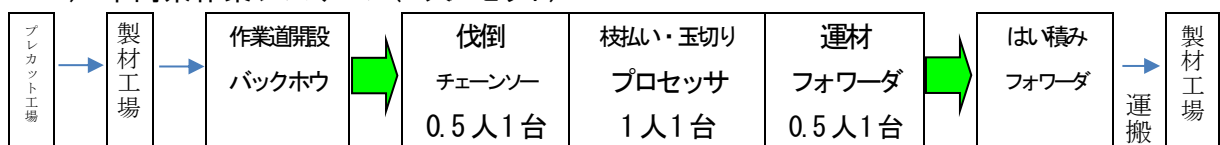
グラップル付きバックホウ 1台 (0.25m³ 積)、プロセッサ 3台 (0.45m³ 1台、0.25m³ 2台)、フォワーダ 2台 (3t 級)、集材機 5台 (大型 1台、中型 4台)

③作業システム

1) 架線系作業システム (3人/セット)



2) 車両系作業システム (2人/セット)



※プレカット工場から2~4週間後に必要となる材の情報が製材工場に伝えられ、製材工場から素材生産班に伝えられる。

④森林作業道の作設方法

路網密度は 300m/ha 以上で、効率的な搬出に加え、工場が必要とする材の優先的な搬出を重視して作設している。

⑤労働生産性及び素材生産コスト

皆伐	架線系作業システム	車両系作業システム
労働生産性 (m ³ /人・日)	4~8	4~7
素材生産コスト (円/m ³)	8,000~9,000	8,000~9,000

搬出が集中する期間においても、架線系で 25 m³/日、車両系で 15 m³/日 程度の生産量を維持している。また、生産量は工場の需要とのバランスを常に考慮している。

5. 今後の取組み等

○将来の森林管理へ向けた取組み

- ・ 現在、自社林の森林経営計画策定に向けて取組みを始めている。
- ・ 森林経営計画に基づく適切な自社林の管理や将来にわたる計画的な森林経営を目指す。
- ・ 自社林周辺の森林も含めた団地化を進めている。
- ・ 林地残材を効率的に回収するため、フォワーダの改良を検討している。

○人材の育成

- ・ 地域の急峻な地形に対応していくため、架線系作業システムのさらなる技術向上・継承に取り組む（平成 28 年度は 2 名が架線作業主任者の資格を取得）。
- ・ 伐採・搬出、さらに地拵えから新植・下刈・間伐までの森林作業を一貫して行える新たな作業班の編成を予定している。
- ・ 現場状況に応じて架線系と車両系の選択を判断できる人材、また、森林経営計画を作成できる人材を育てる。



【プロセッサによる枝払い・玉切り】



【フォワーダによる運材】



【集材機による全幹集材とプロセッサによる玉切り】

【問い合わせ先】

所属：埼玉県秩父農林振興センター

役職・氏名：技師・松本薫

連絡先：0494-25-1312